

1 実践事項（①）

タイトル：「保幼小連携事業の取り組みを通して保育実践の充実を図る。」

2 実践内容

- ・ 授業参観、保育参観、研究会をもち、学びの連続性を共有する。
- ・ 校区内の保幼小交流会を通して幼児同士、保育者同士の関わりを深める。

3 説明資料

<公開保育への参加を通して>



<公開保育後の研究会に参加>

[町保幼小連携事業への積極的な参加]

- ・ 町保幼小連携事業の年間計画に沿って年4回公開保育を実施。
- ・ 公開保育を実施する園は町内の全保育施設が対象。公開保育後には振り返りの場を設け、参加者の学びの機会となっている。
- ・ 各園に延べ24名の職員を派遣した。

[町保幼小連携事業の学びから]

- ・ 沖縄女子短期大学講師の名渡山よし乃氏から、「各園の特色を生かしつつも、「遊びを充実させ、遊び込むための時間の保証」をしていくことを与那原町の重要な取り組みとして進めていってほしい」という講評を受け、本園の職員同士で情報共有の場をもち、「遊びの充実」「遊び込む」ことが、幼児期にふさわしい生活を保障することであり、保育実践の充実、保育の質の向上の土台となるということの共通理解を図る機会となった。

<校区内施設との交流を通して>



4月に担当者会議を開催し、幼児同士の交流会の年間計画を立てている。また、3月には年間交流を振り返り、成果・課題を参考にし次年度の交流計画を行う予定。

[結節点としての役割]

- ・ これまでの連携では幼児同士の交流が主となり、職員同士の関わりはその場限りとなってしまうことに改善の必要性を感じた。このことから、各園において保幼小連携事業に関わる担当者を決めてもらい、名簿を作成、配布することでお互いの名前と顔が一致し、関係作りの構築につながるのではないかと考え実施した。
- ・ 校区内全保育施設の幼児同士の横のつながりを築き、安心して就学することにつながると考え、「交流週間」「ようこそ与那原幼稚園へ！はじめましての会」「1年生になっても遊ぼうね♪」など、交流の場の機会を設けている。各施設の状況に応じて来園しやすいように交流日を一週間の期間で設け、事前にFAXにて参加の可否のやり取りを行っている。

[実施後のアンケートより一部を紹介]

- ・ 水遊びやサッカーでは他園の子どもと一緒に遊んでいました。「保育園より楽しい～！また行きたい！」という感想がありました。
- ・ 新しい環境に戸惑う子にとって、年に数回交流会があることは良い機会になるのでありがたい。



「はじめましての会」では111名の園児が交流を楽しみました。

<園庭でサッカー>



ホルトノキには蝉がたくさんとまるよ！



<虫探し>

また一緒に遊ぼうね！



うん！またくるね！

4 成果

- ・ 保幼小連携担当者を決めたことで、打ち合わせのやりとりをする際に担当者同士で日程などの交渉が直接できるので、安心感をもって交流をすすめることにつながった。
- ・ 交流園の子どもや保育者が顔や名前を覚え、親しみをもって声を掛け合うよう姿がみられた。

5 課題

- ・ 遊びや学びの連続性を踏まえた保育実践の充実に努めたい。
- ・ 担当者会議や交流会において、結節点として必要な役割についてお互いに声を出し合う機会を設け、改善を図っていきたい。